

みみをすまます

音楽会のテーマを『みみをすまます』
といたしました。谷川さんに「みみ
をすまます」というすばらしい詩があ
る事に由来をしています。真宗の
お聴聞の姿勢にも通じると言う、気持
ちからです。本堂とは、如来様のお
心に「みみをすまます」場所ですもの
ね。あなたにも、6月25日耳を澄ま
していただきたいのですが、とにも
かくにも、谷川さんの詩を三篇紹介
いたします。

みみをすまます

みみをすまます
きのうの
あまだれに
みみをすまます
みみをすまます
いつから
つづいてきたともしれぬ
ひとびとの
あしおとに
みみをすます
めをつむり
みみをすまます

たまおと
ひきずられるくさり
ふりおろされるむち
ののしりと
のろい
くびつりだい
さのこぐも
つきることのない
あらそいの
かんだかい
ものおとにまじる
たかいいびきと
やがて
すずめのさえずり
かわらぬあさの
しずけさに
みみをすまます
(ひとつのおとに
ひとつのこえに
みみをすまますことが
もうひとつのおとに
もうひとつのこえに
みみをふさぐことに
ならないように)

ハイヒールのこつこつ
ながぐつのだたどた
ぼっくりのぼくぼく
みみをすまます
ほうばのからんころん
あみあげのざつくざつく
ぞうりのぺたぺた
みみをすまます
わらぐつのさくさく
さぐつのことごと
モカシンのすたすた
わらじのてくてく
そうして
はだしのひたひた……
にまじる
へびのするする
このはのかさこそ
きえかかる
ひのくすぶり
くらやみのおくの
みみなり
みみをすまます
しんでゆくきょうりゅうの
うめきに
みみをすまます
かみなりにうたれ
もえあがるきの
さけびに
なりやまぬ
しおぎいに
おともなく
ふりつもる

みみをすまます
ひやくねんまえの
ひやくししょうの
しゃっくりに
みみをすまます
みみをすまます
せんねんまえの
いざりの
いのりに
みみをすまます
みみをすまます
いちまんねんまえの
あかんぼの
あくびに
みみをすまます
みみをすまます
じゅうまんねんまえの
こじかのなきごえに
ひやくまんねんまえの
しだのそよぎに
せんまんねんまえの
なだれに
いちおくねんまえの
ほしのささやきに
いっちようねんまえの
うちゅうのとどろきに
みみをすまます

ブランクトンに
みみをすまます
なにがだれを
よんでいるのか
じぶんの
うぶごえに
みみをすまます
そのよるの
みずおとと
とびらのきしみ
ささやきと
わらいに
みみをすまます
こだまする
おかあさんの
こもりうたに
おとうさんの
しんぞうのおとに
みみをすまます
おじいさんの
とおいせき
おばあさんの
はたのひびき
たけやぶをわたるかせと
そのかせにのる
ああめんと
なんまいだ
しょうがつこうの
あしぶみおるがん

みみをすまます
みちばたの
いしころに
みみをすまます
かすかにうなる
コンピューターに
みみをすまます
くちごもる
となりのひとに
みみをすまます
どこかでギターのつまびき
どこかでさらがわれる
どこかであいうえお
ざわめきのそのの
いまに
みみをすまます
みみをすまます
きょうへとなだれこむ
あしたの
まだきこえない
おがわのせせらぎに
みみをすまます
詩集『みみをすまます』(福音館書店)より

うみをわたってきた
みしらぬくにの
ふるいうたに
みみをすまます
くさをかるおと
てつをうつおと
きをけずるおと
ふえをふくおと
にくのにえるおと
さけをつぐおと
とをたたくおと
ひとりごと
うったえるこえ
おしえるこえ
めいれいするこえ
こぼるこえ
あざけるこえ
ねこなでこえ
ときのこえ
そして
おし
……
みみをすまます
うまのいななきと
ゆみのつるおと
やりがよろいを
つらぬくおと
みみもとにうなる

かっぱ
たにかわしゅんたろう
かっぱかっぱらった
かっぱらっぱかっぱらった
とってちってた
かっぱなっぱかっぱ
かっぱなっぱいっぱかっぱ
かっぱなっぱいっぱかっぱ
かっぱなっぱいっぱかっぱ

